### "みんなごと"のまちづくり推進事業

# <u>まちづくり・お宝バンク</u>コーディネーター報告

2022年 9月 Vol.20

市民協働推進コーディネーター 日高由紀

# 「着物の壁」なくしたい」バリアフリー着物の開発

### お宝No.419 華手毬

元中学校教員の藤澤さんが41年の教員生活を退職後に経営を始められたレンタル 着物店「華手毬」(はなてまり)。教員時代,校内で執り行われる成人式を何度も 経験されたそうですが,成人式という晴れの舞台に一部の生徒が出席しておらず、 事情を聞くと自宅にいるとのこと。理由は「障がいのある方へは着付けをしており ません」とお店に断られてしまったり、「汚される恐れがある為、着物はお貸し出 来ません」と言われてしまい「振袖を着る事が出来ないので出席は諦めました」と いうことだったそうです。そのことがずっと心に残っており,「着物の壁 なくし たい」をキャッチフレーズに,行動を起こそうとクラウドファンディングに挑戦し 目標額を達成されました。

●知的、身体的に不自由のある方●ベッドの上での着付けが必要な方●汚す事が心配な方●他店で断られてしまった方●晴れ着(振袖)を諦めていた方以上のような方に最適な着物類の開発に取り組まれました。

成人式と卒業式用の振袖・帯・袴・小物等着付けに必要な物一式に特殊な加工を施し、付属のマニュアルを見ながら簡単に着せ付けをする事が出来るようにデザインされています。



和裁士さんと協働して開発した試作品

特別な着付けの知識や経験は必要なく,通常の身障者着付けと比べると,着る方の負担を 大幅に削減する事が可能なので安心して利用できるとのことです。 ハレの日にみんなが着られる着物を!と いう藤澤さんの取り組みが前進しています。

# 「京都ニュース」映像の活用について

### お宝No.234 一般社団法人京都映画芸術文化研究所 おもちゃ映画ミュージアム

1956年から1994年まで,映画館で上映されていた市政ニュース映像を皆さんのまちづくり活動で上映してみませんか。一部デジタル化したものを,<u>おもちゃ映画ミュージアムのサイト</u>に静止画像とタイトルを載せて紹介しています。

60年以上前の祇園祭や時代祭,西陣パレードに産業まつりパレードなどの現在では行われていないイベントの様子や洛西ニュータウンが出来る様子に高速道路開通の他にも昔の京都市内の建物やまちの風景、風物詩を映像で見ることができます。依頼内容に合わせてDVDに編集したものをご活用いただけます。

また、京都市から立命館大学アート・リサーチセンターに寄贈された16mmフィルム「京都ニュース」の利活用を進めるアーカイブ事業も7月から公開されています。立命館大学アート・リサーチセンターと(一社)京都映画芸術文化研究所が連携してデータ化したものを検索できるようにし、様々な研究や活動に活用いただけるよう進めています。それに関連して、7月2日に「京都ニュース」アーカイブ公開記念シンポジウムも開催されました。シンポジウム参加者からは、アーカイブ事業の現在と今後の展望の可能性などの質問がいくつも出て関心の高さが伺えました。

【<u>立命館大学アート・リサーチセンター 「京都ニュース」アーカイブ</u>】



35ミリフィルム 京都ニュース No 33





### 様々なまちづくり活動を授業で紹介

大学での授業で、京都市のまちづくり団体の活動を知り、インタビューをしたいという依頼があり、学生さんたちが「まちづくり・お宝バンク」から選んだ団体さんに登壇いただくコーディネートをしました。登壇された2団体さんとも、体験型で活動紹介をしてくださって、まちづくり活動に関わったことがないという学生さんたち

からも活発な意見が出ました。

#### お宝No.283 NPO法人NCMジャパン

NCMジャパン京都事務所代表の篠澤さんに、これまで行ってきた様々な活動紹介の他、現在の活動を行うに至ったご自身のキャリア形成についてもお話いただき、卒業後のキャリアについて考える時期の学生さんにとっても刺激になったようです。

また,施設内で運営している「花園教会水族館」で育てている190種類もの生き物の中から亀とトカゲを特別ゲストとして連れてきてくださり,授業終了後にはふれあい体験も行いました。



花園教会水族館とは

### お宝No.247 ワカゾー霍野 廣由

若手僧侶グループ ワカゾーから藤井さんにお越しいただき,デスカフェ についての紹介と学生さんたちからリクエストのあった「死生観光トランプ」を使ったワーク体験を行いました。

90分という短時間だったのでデスカフェの対話まではできませんでしたが、いくつかのグループに分かれて、藤井さんから出される問いについて、トランプに描かれた絵や説明書きを見ながら感想を共有するワークで盛り上がりました。

世界各国の死生観が描かれている「死生観光トランプ」を眺めていると, 「いろんな文化や死生観があることが分かってプチ世界旅行をしているみたい。」「トランプをきっかけに自分の死について考えるのが面白い」という 感想も聞かれました。



授業の最後に、自分の一番気になる死生観を1 つ選んで紹介しあいました。

# 地域のカフェとコラボして刺し子ワークショップを開催

お宝No.430 水野佑紀

お宝No.411 KYOTO LAUNDRY CAFE

高齢者福祉施設西院デイサービスを利用しているおばあちゃんたちと京都市立芸術大学の学生さんによる刺し子ブランド「ひとめひとめ」が、いつもの施設を飛び出してご近所のカフェにて、刺し子体験ワークショップを開催しました。

今回の会場を提供してくださった<u>KYOTO LAUNDRY CAFE</u>山本さんは「カフェを活用して地域の出合をプロデュースしたい」と,まちづくり・お宝バンクに提案を出し,今回のワークショップ開催に協力してくださいました。

テーブルいっぱいに広げられた鮮やかな色や布にワクワクして,カフェのお客 さんも飛び入り参加してくださり,おばあちゃんたちと参加者が縫いあげた作品

は芸大生スタッフによってブローチに仕上がりました。

スタッフが用意してくださった刺し子の手順ボードを見ながら作業をすすめ、完成後には自分の作品を見せ合いながらステッチのアイデア交換をしたり、演歌を披露してくださるおばあちゃんもいらして、終始たのしい雰囲気で盛り上がりました。

7月末にKYOTO LAUNDRY CAFEで開催されたランドリーマルシェにもひとめひとめの作品を出店し、多くのお客様に刺し子作品を購入いただいた上にオーダーまでいただいたとのことで、おばあちゃんたちの刺し子作業にもますます張り合いが出たようです。



普段とは違う雰囲気の中, はじめは少し緊張気味のおば あちゃんたちでしたが,刺し 子作業が始まると,すいすい と縫い進めていました。

祇園祭期間中だったので 厄除け粽を縫いました。→

## 公園芝生プロジェクト始動

#### お宝No.420 南部公園愛護協力会

昨年度の<u>クロスセクター京都2022</u>で立ち上げられた「伏見プレーパーク」チームが今年2月に開催した「伏見プレーパーク」は大盛況で終了しました。開催したことがきっかけで近隣住民からお声がけいただき、南部公園愛護協力会のメンバーも増えたという嬉しい報告もありました。

その後、「公園にみんなが憩う芝生があったらいいな」という話が出たので、偶然にもその直前にまちづくり・お宝バンクに提案してくださった "芝生の神様"松本さんをお繋ぎして全面協力いただけることとなり、南部公園での芝生育成プロジェクトが始まりました。公園内で芝生を育てるのに適した植え付け場所探しや、土壌づくり、芝生のメンテナンス方法など、毎月の活動で松本さんのアドバイスを受けながら取り組んでいます。暑い夏の間の芝生管理は難しいと言われていますが、メンバーのお世話のおかげで無事に夏越えをして育っているようです。公園内の花壇で大切に育てた芝生の苗を徐々に公園の敷地に移植して増やしていく計画です。花壇で増やしながら移植して広げていくという、芝生工場のような仕組みが面白いですね。

9月には元気に育った芝生を移植しました。10月頃までは成長していくそうです。今後の成長も楽しみです。



全国のサッカーグラウンドで芝生管理をしていらっ しゃる松本さんのアドバイスを受けて公園の花壇に 植付けした芝生の苗(↑7月の様子)



公園の北側を みんなで耕して、 花壇で育てた芝 生を移植しまし た。

(←9月の様子)

南部公園愛護協力会活動日は、毎月第2土曜日・第4日曜日 9:00~10:00(雨天中止)です。

## 子供たちと京都の夏野菜について学ぶワークショップを開催

お宝No.344 NPO法人まなあそび

お宝No.248 西喜商店 近藤貴馬

NPO法人まなあそびが醍醐寺と連携して取り組んでいる「醍醐こども観光大使」のイベントで,京都の夏の野菜について学ぶワークショップを西喜商店 近藤さんを講師にお招きして開催しました。

実は2020年にこの企画をしていたのですが,長引くコロナ禍で中止となり2年越しでのワークショップ実現となりました。

ワークショップは醍醐寺三法院にある施設内で開催され、「初めまして」の子供たちも互いに仲良くなって帰ってもらえたらという想いもあり、グループワークではメンバー同士が意見を出し合いながら考える ゲームも取り入れられました。

「八百屋さんに行ったことがある?」「野菜が好き・嫌いなひと」等の質問から話を広げていき,ワークショップ序盤では,西喜商店の近藤さんが営まれている八百屋さんの仕事とその仕組みについて,動画も折り混ぜながら分かりやすく説明いただきました。



丹波の枝豆の試食には、みんなが手を 伸ばして味わっていました。

夏の京都で作られている野菜当てクイズでは, 正解が出ると実物の野菜が箱から取り出され,野菜の特徴や生産者についても紹介されました。

後半は、枝豆の試食やかぼちゃの断面と色当て をして、「野菜は嫌い」と言っていた子供も前の めりになって試食に手を出す様子も見られ盛り上 がりました。

ワークショップ終了後には、クイズで使われた 野菜を買い求める保護者の姿もあり、近藤さんに おいしい食べ方を聞くなどして親子で野菜に親し んだ日となりました。



かぼちゃの鮮やかな断面が現れた時には歓声が上がりました。